

中東における新秩序形成への最近の動き

池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）

1. 「アラブの春」から10年

民主化の挫折・混乱

「まだら状の秩序」

非国家主体の台頭：IS（シリア、イラク）、クルド系組織（シリア）、地域・部族連合（リビア、イエメン）

米国の覇権の希薄化

新興域外大国の関与増大：ロシア、中国

地域大国の台頭：イラン、トルコ

「アラブの大国」の不在：エジプト、サウジアラビア

小国のレバレッジ：カタール、UAE

イスラエルの域内秩序への公然とした組み込み、中東国際政治における主導性の発揮

2. 「アブラハム合意」による「第3極」形成の試み

イランの脅威への対抗

トルコ包囲網の形成を模索

先端科学技術・情報協力

→UAEが先鞭をつけた対イスラエル国交樹立　バーレーン、スーダン、モロッコが追随
サウジアラビアの決定

中東国際政治におけるパラダイム転換

旧パラダイム：アラブ民族主義・反植民地主義・反帝国主義・反英米・反イスラエルのイデオロギーの終焉

→新パラダイム：アラブ人・ユダヤ人の宗教的・神話的な「兄弟民族」の絆を主張→イラン、トルコの「異民族の帝国」への対抗軸

ユダヤ教・キリスト教（特にカソリック・バチカン）・イスラーム教の宗教指導層の「アブラハム宗教」に関する協調

トランプ政権によるイスラエルへの強い支援→バイデン政権でこれがどの程度持続するか